

ダンス&アクターズ科 昼間部 I 部

科目名	英会話(英会話(1)(2))		担当教員名	ジェフリー バーネット
時間数	60	必修・選択	配当年次	1年次
曜日・時限		必修	教室	803
授業の到達目標	様々な場面で出てくるトピックに関して、自信を持って話せるようになる。			
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する 日常生活の様々な場面で使える頻度の高いコミュニケーション英語を学ぶ。			
【実務経験】 2014年より高校や大学、また子供から大人まで幅広い世代への英会話講師の経験あり				
回数	授業形態	内容		
1	講義	L. 1 授業計画の説明、プレテスト、初対面のあいさつ～お別れまでの会話が出来る。		
2	講義	L. 2 & 3 自己紹介、友人の紹介、パーソナルインフォメーションに関する一般的な質問に対する受け答えが出来る。		
3	講義	L. 5 & 6 好き・嫌い等の好みについての会話が出来る。		
4	講義	L. 8 意見を尋ねる/意見を述べる。お誘いを受けた際の返答が出来る。		
5	講義	L. 11 & 12 人を褒める&褒められた際の会話表現。(衣服など)着ているものに関して述べる事が出来る。		
6	講義	L. 7, 13, & 14 時間について表現する。日々の習慣について話す&質問できる。		
7	講義	L. 19 & 20 道案内をする・場所を尋ねることが出来る。		
8	講義	L. 21 & 23 数やお金の数え方・価格や頻度についての質問や受け答えが出来る。		
9	講義	L. 28 料理の味や材料について&レストランでのオーダーが出来るようになる。		
10	講義	L. 29 & 30 過去の出来事について話す&質問できる。		
11	講義	L. 31 自分の体験について話す&それに対するリアクションや返答が出来るようになる。		
12	講義	L. 32 週末や未来の予定について話す事が出来る。		
13	講義	総復習		
14	講義	本試験		
15	講義	試験返却、解説、ポストテスト		
準備学習 時間外学習	事前に教科書を読んでおきましょう。			
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	筆記試験100%		
教材	教科書	Speak Now1		
	参考書			
学生への メッセージ	皆さんは既にたくさんの英語を知っています。英語を話せるように、一緒に頑張りましょう！			

ダンス&アクターズ科 昼間部 I 部

科目名	プレゼンテーション(ヴォイスドラマ(1)(2))		担当教員名	水城 なおき
時間数	60	必修・選択	配当年次	1年次
曜日・時限		選択	教室	741.742教室
授業の到達目標	ON AIR出来るだけの作品作り、演技・表現力の習得			
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する 発生・滑舌・マイクワーク等の基礎から、声のみの演技の技術や表現力の習得			
実務経験	H1年・キャストプラン所属、H5年・関西芸術座入団、テレビ・映画・ラジオ・舞台等多数出演、舞台演出多数			
回数	授業形態	内容		
1	演習	心と身体の解放		
2	演習	短時間での台本の解釈と表現		
3	演習	台本の理解・解釈		
4	演習	声のみの演技の技術や表現力の向上		
5	演習	声のみの演技の技術や表現力の向上		
6	演習	声のみの演技の技術や表現力の向上		
7	演習	声のみの演技の技術や表現力の向上		
8	演習	台本の理解・解釈		
9	演習	ON AIR出来る作品づくり		
10	演習	短時間での台本の解釈と表現		
11	演習	台本の理解・解釈		
12	演習	声のみの演技の技術や表現力の向上		
13	演習	声のみの演技の技術や表現力の向上		
14	演習	声のみの演技の技術や表現力の向上		
15	演習	台本の理解・解釈、ON AIR出来る作品づくり		
準備学習 時間外学習	基礎練・授業内課題のクリア			
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	実技試験100%		
教材	教科書	ヴォイスドラマ台本		
	参考書	アクセント辞典		
学生への メッセージ	言葉の理解力と表現力は確実に上がるはずです。いい作品を共に創りましょう！			

ダンス&アクターズ科 昼間部 I 部

科目名	演劇史(舞台舞踊史)		担当教員名	照井 裕章
時間数	60	必修・選択	配当年次	1年次
曜日・時限		選択	教室	
授業の到達目標	ダンサーとして仕事をするうえで必要な舞踊の歴史を知る。ダンスの表現の幅を広げることが出来る。			
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する ダンスの起源からショービジネスとしてのダンスの歴史まで時系列に合わせて理解をする。当時を知る映像を交えて今自分たちがどういうダンスをしているのかを学ぶ。			
【実務経験】	ユニバーサルスタジオジャパンにてエンターティナーとして契約。ダンスインストラクター、バックダンサー、イベント出演など。2006年より大阪ダンス&アクターズ専門学校にて学科を担当。			
回数	授業形態	内容		
1	講義	ダンスの起源。		
2	講義	神事としての日本の舞踊		
3	講義	バレエの歴史		
4	講義	モダンダンスの歴史		
5	講義	ジャズダンスの歴史①		
6	講義	ジャズダンスの歴史②		
7	講義	ストリートダンスの歴史①		
8	講義	ストリートダンスの歴史②		
9	講義	ストリートダンスの歴史③		
10	講義	コンテンポラリーダンスの歴史		
11	講義	ビジネスモデルとしてのミュージカル		
12	講義	タップダンスの歴史		
13	講義	ワールドダンス		
14	講義	テストと振り返り		
15	講義	まとめと振り返り		
準備学習 時間外学習	授業内で知れたものを各自でインターネットを活用し知見を広げること。			
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	筆記試験100%		
教材	教科書			
	参考書			
学生への メッセージ	ダンスの歴史を知ることはそのルーツを知ることです。ダンスがなぜ存在するのか、その理由を知ってダンスをもっと好きになってください。			

ダンス&アクターズ科 昼間部 I 部

科目名	音楽理論(ミュージックセオリー(1))		担当教員名	小林 延江
単位時間	30	必修・選択	配当年次	1年次
曜日・時限		必修	教室	
授業の到達目標	楽譜に書かれた音やリズム・記号の意味について理解し、楽譜の基礎を学んでいくことで正確に楽譜を読み取る力を身につけていくことを目標とする。			
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する教科書、補助プリント、楽譜と音源を使い、実際に楽譜の中でどのように書かれ、使われているのかも紹介しながら講義し、ワークブックを用いて繰り返し問題を解きながら読譜力をつけていきます。			
【実務経験】2009年より大阪スクールオブミュージック専門学校で勤務。その他、宝塚エジュケーションクラブ、第一楽器(株)等の音楽教室でピアノ講師として後進の指導にもあたっている。				
回数	授業形態	内容		
1	講義	ファンデーションカリキュラムの説明・LMの説明・楽譜を時代ごとに追っていき、古代から現代への楽譜の移り変わりを知る		
2	講義	鍵盤と音名の一致・楽器ごとの音域を知る		
3	講義	音符・休符の表し方、連符		
4	講義	拍子記号・小節線について、拍子(単純拍子は詳しく、複合・混合拍子は紹介のみ)、タイ・シンコペーション		
5	講義	反復記号を学び、音源を使用して楽譜を追えるようにする		
6	講義	楽譜と音源を使用し、前半の総復習		
7	講義	前回までの確認テストと振り返り		
8	講義	メジャースケールの仕組み・#系のメジャースケールのみ		
9	講義	5度圏を用い、調号を用いてスケールを書けるようにする・b系のメジャースケール		
10	講義	調号と臨時記号の違い・臨時記号の効力・正しい楽譜の書き方		
11	講義	速度記号、速度標語、強弱記号を学ぶ		
12	講義	楽譜と音源を使用し、後半の総復習		
13	講義	期末テスト前復習週、前回までの振り返り		
14	講義	期末確認テストと振り返り		
15	講義	講義内容のまとめと実践的なワークシヨック		
準備学習 時間外学習	教科書を読み使う用語の確認と譜面の確認			
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	筆記試験100%		
教材	教科書	ゼロから始める音楽理論、ワークブック		
	参考書	なし		
学生への メッセージ	楽譜は慣れです！楽譜に触れる機会をたくさん増やし、楽譜に書かれていることを正確に読み取れる力を身につけていけるよう日々の授業をコツコツ取り組んでいきましょう。			

ダンス&アクターズ科 昼間部 I 部

科目名	音楽理論(ミュージックセオリー(2))		担当教員名	小林 延江
単位時間	30	必修・選択	配当年次	1年次
曜日・時限		必修	教室	
授業の到達目標	スケールの仕組みや曲の雰囲気の特徴付けるKeyについて、移調の仕方、楽譜に書かれた記号の演奏方法について、コードの概念と構造について理解することにより、楽譜をもう少し深いところまで読み取る力を身につけていくことを目標とする。			
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する教科書、補助プリント、楽譜と音源を使い、実際に楽譜の中でどのように書かれ、使われているか、どう使っていくか等紹介しながら講義し、ワークブックを用いて繰り返し練習していきながら習得していく。			
【実務経験】2009年より大阪スクールオブミュージック専門学校で勤務。その他、宝塚エジュケーションクラブ、第一楽器(株)等の音楽教室でピアノ講師として後進の指導にもあたっている。				
回数	授業形態	内容		
1	講義	マイナースケールの仕組み・5度圏を用いてナチュラルマイナーの説明		
2	講義	ハーモニックマイナー、メロディックマイナーの説明		
3	講義	近親調・それぞれの調の関係を楽譜を用いて知る		
4	講義	五線を用いて移調を出来るようになる		
5	講義	省略記号、奏法記号、装飾記号を知る		
6	講義	楽譜と音源を用い、前半の総復習		
7	講義	前回までの確認テストと振り返り		
8	講義	コードの概念とトライアドの構造について知る		
9	講義	トライアドの知識を踏まえ、7thコードに発展させる		
10	講義	トライアドと7thコードの響きの違いを曲を用いて知る・dimコードの構造と響き		
11	講義	add9、sus4、6thコードについて知る		
12	講義	楽譜と音源を用い、後半の総復習		
13	講義	期末テスト前復習週、前回までの振り返り		
14	講義	期末確認テストと振り返り		
15	講義	講義内容のまとめと実践的なワークシヨック		
準備学習 時間外学習	教科書を読み使う用語の確認と譜面の確認			
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	筆記試験100%		
教材	教科書	ゼロから始める音楽理論、ワークブック		
	参考書	なし		
学生への メッセージ	楽譜は慣れです！楽譜に触れる機会をたくさん増やし、楽譜に書かれていることを正確に読み取れる力を身につけていけるよう日々の授業をコツコツ取り組んでいきましょう。			

ダンス&アクターズ科 昼間部 I 部

科目名	舞台美術照明(明日への扉A(1))		担当教員名	照井 裕章
時間数	60	必修・選択	配当年次	1年次
曜日・時限		選択	教室	
授業の到達目標	骨髄移植推進キャンペーンミュージカル「明日への扉」の舞台制作を通じてを通じて舞台美術や舞台照明など舞台に欠かすことのできない必要な技術系の知識を得て演出の意図を理解できるようになる。			
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する 出演者として舞台制作に関わりながら、舞台はチームで制作されているということを理解し、その知識を演出の意図を交えながら理解する。チームとして協同し、チームマネジメントを学びます。			
【実務経験】	ユニバーサルスタジオジャパンにてエンターティナーとして契約。ダンスインストラクター、バックダンサー、イベント出演など。2006年より大阪ダンス&アクターズ専門学校にて学科を担当。			
回数	授業形態	内容		
1	演習	基礎訓練(開口・発声・母音訓練)芝居作り・M1～2鑑賞。		
2	演習	基礎訓練(開口・発声・母音訓練)1幕本読み		
3	演習	基礎訓練1幕本読み		
4	演習	基礎訓練1幕本読み		
5	演習	基礎訓練1幕本読み		
6	演習	Pre Aud. (歌・芝居・ダンス)		
7	演習	基礎訓練(開口・発声・母音訓練)3チームに分けて1幕小返し		
8	演習	母音訓練・文法訓練1幕小返し		
9	演習	基礎訓練・シーン作り1・2・3・4場		
10	演習	基礎訓練・シーン作り5・6・7場		
11	演習	基礎訓練・シーン作り8場 1幕小返し		
12	演習	1幕まとめ		
13	演習	ホール稽古		
14	演習	ホール稽古		
15	演習	本番		
準備学習 時間外学習	授業内で発表する課題を次週までに完成させること。			
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	実技試験100%		
教材	教科書			
	参考書			
学生への メッセージ	本番に立つことが出来たら、この授業で舞台人に必要なことの全てを学ぶことが出来ます。最後まで一緒に頑張りましょう！			

ダンス&アクターズ科 昼間部 I 部

科目名	イヤートレーニング(イヤートレーニング(1))		担当教員名	小林 延江
単位時間	30	必修・選択	配当年次	1年次
曜日・時限			教室	
授業の到達目標	<p>《リズム》4分の3拍子・4分の4拍子で、4分音符、8分音符、16分音符、4分休符、8分休符の混ざったリズムを聴き取れるように。 《メロディー》C～Gまで(跳躍進行あり)を正確に聴き取り楽譜に書き表せるように。 《音程》1～8度までの音程を知る。 《コード》メジャーコードとマイナーコードを聴き分ける。</p>			
授業の内容	<p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する キーボードで弾く音を聴き取り、リズムを感じ、それを表現するトレーニングを行っていく授業です。音感・リズム感・感性を鍛えていくと共に、音を集中して聴く力(集中力)、聴こえてきた音を正確に楽譜に表す力を身につけていきます。</p>			
【実務経験】	2009年より大阪スクールオブミュージック専門学校で勤務。その他、宝塚エジュケーションクラブ、第一楽器(株)等の音楽教室でピアノ講師として後進の指導にもあたっている。			
回数	授業形態	内容		
1	講義	ファンデーション科目・ET の説明/音の歴史について、音楽について、モールス信号、効果音、周波数(教科書第1章～2章の内容)		
2	講義	4分音符4分休符導入 / リズム打ちを使つての書き取り/線紙を使つて音の高低判定(C～E・2度進行)		
3	講義	線紙を使つての書き取り/3線紙を使つて音の高低判定(C～E・3度の順次進行)		
4	講義	8分音符導入 / 5線を使つてC～E までの書き取り / 全音・半音と度数のみ		
5	講義	休符の多い書き取り問題 / 1・2・3・8度のみ		
6	講義	16分音符の導入 / 復習・暗記問題/1・2・3・8度のみ変化記号(#・b)が付いた場合		
7	講義	前回までの確認テスト振り返り		
8	講義	C～E で跳躍進行/1～5と8度(4度、5度は#, bなし) トライトーン		
9	講義	8分休符+8分音符の導入 / C～Fまで(順次進行)/1～5と8度(4度、5度#, bあり)トライトーン		
10	講義	8分音符+16分音符リズムの導入 / C～Gまで(順次進行)/1～6と8度		
11	講義	C～Gまで(跳躍進行)/1～8度		
12	講義	1～8度 音程まとめ/Major, Minorの聞き分け/総復習		
13	講義	期末テスト前復習週、前回までの振り返り		
14	講義	期末確認テストと振り返り		
15	講義	講義内容のまとめと実践的なワークシヨック		
準備学習 時間外学習	教科書を読み使う用語の確認と譜面の確認			
成績評価	1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%) 3. 課題 (%)	筆記試験100%		
教材	教科書	イヤートレーニング		
	参考書	なし		
学生への メッセージ	週1回の授業を大切に！こつこつと積み重ねていくことで少しずつ耳は鍛えられていきます。継続して授業に出席することを定着させ、正確な音感・リズム感を身につけていきましょう。			

ダンス&アクターズ科 昼間部 I 部

科目名	イヤートレーニング1(イヤートレーニング(2))		担当教員名	小林 延江
単位時間	30	必修・選択	配当年次	1年次
曜日・時限			教室	
授業の到達目標	<p>《リズム》4分の3拍子・4分の4拍子で、4分音符、8分音符、16分音符、4分休符、8分休符、付点8分音符の混ざったリズムを聴き取れるように。《メロディー》C～Cまで(1オクターヴ/跳躍進行あり)《2声メロディー》Key:Cのメロディーを正確に聴き取り楽譜に書き表わせるように。 《音程》1～8度までの音程の理解を深める。《コード》メジャーコードとマイナーコードの違いを瞬時に聴き分ける。</p>			
授業の内容	<p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する キーボードで弾く音を聴き取り、リズムを感じ、それを表現するトレーニングを行っていく授業です。音感・リズム感・感性を身につけていくと共に、音を集中して聴く力(集中力)、聴こえてきた音を正確に楽譜に表す力も身につけていきます。</p>			
【実務経験】	2009年より大阪スクールオブミュージック専門学校で勤務。その他、宝塚エジュケーションクラブ、第一楽器(株)等の音楽教室でピアノ講師として後進の指導にもあたっている。			
回数	授業形態	内容		
1	講義	復習(C～Gまで) マイナースケールのメロディー視唱/復習(1～8度) 音程ドリル/Major, Minorの聞き分け		
2	講義	3連符の導入 / 復習(C～Gまで) Cマイナースケールのメロディー視唱/音程ドリル/C, G, Fの聞き分け		
3	講義	復習(C, G, Fコード付け導入・後付け)/C～A まで(臨時記号後付け)/マイナースケールのメロディー視唱/音程ドリル/Major, Minorの聞き分け		
4	講義	C～A まで(臨時記号後付け) /復習 音程ドリル		
5	講義	付点8分音符・16分音符の導入/(タイの導入・後付け)/C～B まで(臨時記号後付け)/復習 音程ドリル		
6	講義	中間確認テスト前復習・前回までの振り返り		
7	講義	中間確認テストと振り返り		
8	講義	テスト返却/リズム打ち6/8拍子導入/ベース(F-clef)の書き取り(C～G)/Major, Minorの聞き分け		
9	講義	リズム打ち6/8拍子/ベース(F-clef)の書き取り(C～G)/復習 音程ドリル		
10	講義	8分音符・16分音符の導入/リズム打ち6/8拍子 /Major, Minorの聞き分け		
11	講義	リズム打ち6/8拍子 /2声メロディー/復習 音程ドリル		
12	講義	総復習 (リズム打ち6/8拍子)/1オクターブ・2声メロディー		
13	講義	期末テスト前復習週、前回までの振り返り		
14	講義	期末確認テストと振り返り		
15	講義	講義内容のまとめと実践的なワークシヨック		
準備学習 時間外学習	教科書を読み使う用語の確認と譜面の確認			
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	筆記試験100%		
教材	教科書	イヤートレーニング		
	参考書	なし		
学生への メッセージ	週1回の授業を大切に！こつこつと積み重ねていくことで少しずつ耳は鍛えられていきます。継続して授業に出席することを定着させ、正確な音感・リズム感を身につけていきましょう。			

ダンス&アクターズ科 昼間部 I 部

科目名	ヴォイストレーニング1(ヴォイストレーニングA)(1)		担当教員名	吉村元子
単位数	30	必修・選択	配当年次	1年次
曜日・時限		必修	教室	EN532
授業の到達目標	歌うための基礎を学び、表現に活かせるように定着させる。とりわけ前期は、『明日への扉』の舞台で、成果を発揮し、やり遂げることを、ひとつの目標とする。			
授業の内容	<p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する</p> <p>歌うための体作りと発声法の習得が主な内容。トレーニング方法を知り、積み重ねていくことで、歌の表現の幅を広げる。</p> <p>【実務経験者】1988年大阪音楽大学音楽学部声楽学科卒業、教員免許取得。在学中より、バックコーラスとして宝塚歌劇団やTV、CM、コンサート、舞台等に出演。オペラや演奏会など活動を続けながら、2000年よりヴォイストレーナーとして指導にあたり、数々のアーティストを輩出している。</p>			
回数	授業形態	内容		
1	演習	VTの必要性 学び方		
2	演習	歌う為のフォーム(正しい姿勢、見せ方)		
3	演習	発声のメカニズム(歌う時の体の仕組み)		
4	演習	ナチュラルヴォイス(自分のベストな声を知る)		
5	演習	腹式呼吸		
6	演習	表情筋と声の繋がり		
7	演習	ブレスコントロール(自由な歌唱表現の為のブレストレーニング)		
8	演習	ピッチコントロール(正しい音程を身につける為のトレーニング)		
9	演習	母音と子音の役割		
10	演習	正しい発音を身につける為の発音・滑舌トレーニング		
11	演習	共鳴について(声の響きを理解する)		
12	演習	リズムトレーニング		
13	演習	リズムトレーニング		
14	演習	試験		
15	演習	まとめ		
準備学習 時間外学習	前回の復習をしておく。楽譜に目を通す。			
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	1.実技試験100%		
教材	教科書	『明日への扉』のヴォーカルスコアを使用する。		
	参考書			
学生への メッセージ	毎日の積み重ねが力になります。基本に忠実にトレーニングしながら、自分の声の魅力を活かして、歌やダンスに活かしましょう。			

ダンス&アクターズ科 昼間部 I 部

科目名	ヴォイストレーニング1(ヴォイストレーニングA)(2)		担当教員名	吉村元子
単位数	30	必修・選択	配当年次	1年次
曜日・時限		必修	教室	EN532
授業の到達目標	歌うための発声の基礎を踏まえて、表現に活かせるように学習する。とりわけ前期は、『明日への扉』の舞台へ向けて、作品内のナンバーに取り組む事をひとつの目標とする。			
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する 歌うための体作りと発声法の習得が主な内容。トレーニング方法を知り、積み重ねていくことで、歌の表現の幅を広げる。『明日への扉』のナンバーについては、個人指導も行う。 【実務経験者】1988年大阪音楽大学音楽学部声楽学科卒業、教員免許取得。 在学中より、バックコーラスとして宝塚歌劇団やTV、CM、コンサート、舞台等に出演。オペラや演奏会など活動が続けながら、2000年よりヴォイストレーナーとして指導にあたり、数々のアーティストを輩出している。			
回数	授業形態	内容		
1	演習	VTの必要性 学び方		
2	演習	舞台歌唱に必要なトレーニングとは。		
3	演習	オーディション対策として個人チェック。		
4	演習	ナチュラルヴォイス(自分のベストな声を知る)		
5	演習	腹式呼吸の再確認		
6	演習	表情筋と声の繋がり		
7	演習	ブレスコントロール(自由な歌唱表現の為のブレストレーニング)		
8	演習	ピッチコントロール(正しい音程を身につける為のトレーニング)		
9	演習	オーディション対策として個人チェック。		
10	演習	正しい発音を身につける為の発音・滑舌トレーニング		
11	演習	共鳴について(声の響きを理解する)		
12	演習	歌唱と演技のつながり		
13	演習	個人歌唱		
14	演習	試験		
15	演習	まとめ		
準備学習 時間外学習	前回の復習をしておく。楽譜に目を通す。			
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	1.実技試験100%		
教材	教科書	『明日への扉』のヴォーカルスコアを使用する。		
	参考書			
学生への メッセージ	毎日の積み重ねが力になります。基本に忠実にトレーニングしながら、自分の声の魅力 を存分に知り、歌やダンスに活かしましょう。			

ダンス&アクターズ科 昼間部 I 部

科目名	ダンスパフォーマンス1(ジャズA(1))		担当教員名	鈴木 正幸
単位数	30	必修・選択	配当年次	1年次
曜日・時限		選択	教室	Fスタジオ
授業の到達目標	(1)JAZZダンスでの技術を身につけていく。(2)JAZZダンスでの知識及び豊かな表現力を身につけていく。			
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する JAZZダンスに必要な基本トレーニングを行いながら、習得すべき知識を身につけ、ダンサーとしての体づくりを行います。			
【実務経験】	振付、スタジオでのshowcase、公演、多数、CM、ミュージカル出演 スタジオでのTeaching 15年			
回数	授業形態	内容		
1	演習	「アップ」を身につける1 JAZZダンスで必要とされる体づくり		
2	演習	「アップ」を身につける2 アップの仕組みを理解する		
3	演習	「センター」を身につける(1) 回転やジャンプに必要なセンターを身につける		
4	演習	「センター」を身につける(2) 技術的部分の向上		
5	演習	「回転」(1) アームス・スポット、足のけり方		
6	演習	「回転」(2) 3~5を理解し、回転の強化		
7	演習	「ジャンプ」(1) ジャンプの基礎を身につける(手・足・ポジション)		
8	演習	「ジャンプ」(2) ジャンプの基礎を身につける(タイミング・顔のフリ方)		
9	演習	「ジャンプ」(3) アクセル・ジュッテ・アントルラッセ①		
10	演習	「ジャンプ」(4) アクセル・ジュッテ・アントルラッセ②		
11	演習	「表現力」コンビネーションでの手足・顔の表現①		
12	演習	「表現力」コンビネーションでの手足・顔の表現②		
13	演習	「表現力」コンビネーションでの手足の動作①		
14	演習	「表現力」コンビネーションでの手足の動作②		
15	演習	テスト 1~14を総合し、実技テストを行う		
準備学習 時間外学習	・腹筋、背筋の強化・常に姿勢を美しく見せる努力を怠らない事。 ・アームスのポジションを毎日チェック			
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	1. 実技試験 100%		
教材	教科書	なし		
	参考書	なし		
学生への メッセージ	基礎の積み重ねこそが上達への鍵になります。JAZZダンスの楽しさを学んでほしいです。			

ダンス&アクターズ科 昼間部 I 部

科目名	ダンスパフォーマンス(ジャズA(2))		担当教員名	鈴木 正幸
単位数	30	必修・選択	配当年次	1年次
曜日・時限		選択	教室	Aスタジオ
授業の到達目標	(1)JAZZダンスの用語や技法を習得。(2)自らの表現ができるようになる。			
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する JAZZダンスに関して必要な基礎トレーニングを行いながら、習得すべき知識を身につけ、ダンサーとしての体づくりを行います。			
【実務経験】	振付、スタジオでのshowcase、公演、多数、CM、ミュージカル出演 スタジオでのTeaching 15年			
回数	授業形態	内容		
1	演習	「アップ」を身につける1 必要とされる体づくり①		
2	演習	「アップ」を身につける2 必要とされる体づくり②		
3	演習	「アップ」を身につける3 アップの仕組みを理解する①		
4	演習	「アップ」を身につける4 アップの仕組みを理解する②		
5	演習	「プリエ」足のポジション①		
6	演習	「プリエ」足のポジション②		
7	演習	「アームス」アームスのポジションを身につける①		
8	演習	「アームス」アームスのポジションを身につける②		
9	演習	「スポット」回転などに必要なスポットをとる技術を身につける		
10	演習	「センター」(1) 回転に必要なセンターを身につける		
11	演習	「センター」(2) センターを身につけ技術的な向上		
12	演習	「回転」(1) アームス・スポットのつけ方		
13	演習	「回転」(2) ターンの練習		
14	演習	「コンビネーション」コンビネーションでの体の使い方を理解		
15	演習	テスト1~14を総合し、実技テストを行う		
準備学習 時間外学習	・ダンスの舞台、映像などを時間があれば見て下さい。 ・ストレッチをして柔軟な身体づくりをする。			
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	1. 実技試験 100%		
教材	教科書	なし		
	参考書	なし		
学生への メッセージ	基礎の積み重ねこそが上達への鍵になります。JAZZダンスの楽しさを学んでほしいです。			

ダンス&アクターズ科 昼間部 I 部

科目名	ダンスパフォーマンスI(ストリートA(1))		担当教員名	上本 綾子
単位数	30	必修・選択	配当年次	1年次
曜日・時限		選択	教室	Dスタジオ
授業の到達目標	Girl's HIPHOPの基礎的なテクニックや表現を習得し、女性らしい踊りが出来る			
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニングと、バリエーションステップ それを応用したルーティンを実技で行う			
【実務経験】	専門学校での指導歴5年以上、大学での指導3年以上			
回数	授業形態	内容		
1	演習	自己紹介、ストレッチ、アイソレーション		
2	演習	ストレッチ、リズムトレーニング、基礎のルーティンを学ぶ		
3	演習	ストレッチ、リズムトレーニング、ルーティンの続き		
4	演習	リズムトレーニングの応用、表現技法を学ぶ		
5	演習	ルーティンのまとめ、少人数で発表することで表現を学ぶ		
6	演習	リズムトレーニング、基本的なステップ、ボディートレーニング		
7	演習	リズムトレーニング、応用編のルーティンで女性らしさを学ぶ		
8	演習	ボディートレーニング、ルーティンの続きで細かい振付を表現する		
9	演習	ルーティンのまとめ、アドバイスを参考に自身の踊りをふりかえる		
10	演習	リズムトレーニング、アイソレーション、ステップのバリエーション		
11	演習	少し難しいルーティン、テクニックの向上を図る		
12	演習	ルーティン続き、長めの振付を踊る体力をつける		
13	演習	テスト、授業で習得できたことが活かされたか振り替える		
14	演習	実技試験		
15	演習	まとめ		
準備学習 時間外学習	各自前回の授業の復習してから参加する事			
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	実技試験100%		
教材	教科書	なし		
	参考書	なし		
学生への メッセージ	自信を持って表現できるようになるまで毎週がんばりましょう。			

ダンス&アクターズ科 昼間部 I 部

科目名	ダンスパフォーマンス1(ストリートA(2))	担当教員名	上本 綾子	
単位数	30	必修・選択	配当年次	1年次
曜日・時限		選択	教室	Fスタジオ
授業の到達目標	HIPHOPの基礎に加え、Girl's HIPHOPの女性らしいダンススタイルを習得する			
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、ルーティンを実技で行う			
【実務経験】	専門学校での指導歴5年以上、大学での指導3年以上			
回数	授業形態	内容		
1	演習	自己紹介、ストレッチ、アイソレーション、リズムの基礎を学ぶ		
2	演習	ストレッチ、リズムトレーニング、アイソレーション		
3	演習	ストレッチ、リズムトレーニング、アップダウンのリズム応用		
4	演習	ボディートレーニングで踊る体力の向上をはかる		
5	演習	基礎的なルーティンを学ぶ		
6	演習	リズムトレーニングで基礎の習得		
7	演習	アイソレーションとステップの組み合わせでHIPHOPの基礎を習得する		
8	演習	ルーティンを通して表現技法を学ぶ		
9	演習	ルーティン続き、ここにアドバイスをを行い、振り付けに反映させる		
10	演習	ルーティンまとめ		
11	演習	ボディートレーニングとルーティンを通して踊る体力をつける①		
12	演習	ボディートレーニングとルーティンを通して踊る体力をつける②		
13	演習	ルーティン応用・厚生をつけることで制作方法を学ぶ①		
14	演習	ルーティン応用・厚生をつけることで制作方法を学ぶ②		
15	演習	テスト		
準備学習 時間外学習	前回の授業内容を復習しておく			
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	実技試験100%		
教材	教科書	なし		
	参考書	なし		
学生への メッセージ	基礎からコツコツ積み重ねて毎週前進して行きましょう			

ダンス&アクターズ科 昼間部 I 部

科目名	アクティング1(アクティング基礎1(1)(2))		担当教員名	株式会社リコモーション(千田訓子)
時間数	60	必修・選択	配当年次	1年次
曜日・時限		必修	教室	705.6教室
授業の到達目標	表現することの楽しさをしる。 できること・できないことを理解し、芝居の基礎をしっかりと身につける。			
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する 滑舌・発声などの基礎的なことから、身体の使い方、台本テキストを使用して授業をすすめる。 自分で楽しみながら、観てる人にも楽しんでもらう、客観視のできる芝居を身につけていく。			
【実務経験】2000～2012年「リリパットアミーⅡ」に在籍。退団後もTV、舞台等幅広く活動。 近年の主な出演にNHK連続テレビ小説「カーネーション」、テレビ東京「湊かなえサスペンス『望郷』」、 音楽劇「大悪名～The Badboys Last Stand!～」お嬢さん、お手上げだ・明治編」など。				
回数	授業形態	内容		
1	演習	授業説明。テキストを用いたレッスンを習得することが出来る。		
2	演習	自己紹介、スピーチ		
3	演習	ストレッチ、身体の使い方を理解することが出来る。		
4	演習	ゲーム（同時に何かをする、考える）をしながら理解することが出来る。		
5	演習	立つ／歩くの動作を習得することが出来る。		
6	演習	発声／滑舌を理解することが出来る。		
7	演習	エチュード（考える力、瞬発力をつける）を習得することが出来る。		
8	演習	ゲーム（同時に何かをする、考える）を習得することが出来る。		
9	演習	エチュード（考える力、瞬発力をつける）を習得することが出来る。		
10	演習	台本を使ったレッスン。		
11	演習	台本を使ったレッスン。夏期課題説明。		
12	演習	課題発表		
13	演習	発声／滑舌		
14	演習	テスト発表		
15	演習	まとめと振り返り		
準備学習 時間外学習	発声・滑舌等の基礎的な練習			
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	実技試験100%		
教材	教科書	特になし		
	参考書	特になし		
学生への メッセージ	夢はあってもなかなか思うようにいかないと、現実を少しずつ目の当たりにしていく中、一番大切なのは基礎だと言うことと、作品を作るのはチームワークと言うことを知って貰いたいと思っております。生徒からしたら、本当に役にたってるのかなあと思うシアターゲームや滑舌をしますが、何年か後、必ず役に立つので、一瞬一瞬を無駄にしないでほしいなと思います。			

ダンス&アクターズ科 昼間部 I 部

科目名	オーディション対策1(バレエA(1))		担当教員名	山名佳代
単位数	30	必修・選択	配当年次	1年次
曜日・時限		必修	教室	リハーサルスタジオC
授業の到達目標	<p>(1)基本姿勢・基本動作を改めて確認し、正しい身体の使い方・動かし方を反復・習得する。</p> <p>(2)上体と脚の動きをなめらかにバランスよく柔らかく動かせる様にする。</p>			
授業の内容	<p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載するバレエを通じて、心身共に柔軟に、舞台人として大切な身体表現を習得する。「わかりやすさ」に重きを置き、可能な限り学生1人1人に向き合える様な丁寧な授業を心がける。バレエでの学びが、具体的にどんな事に結びつくのかを説明し、それぞれの中ではっきりとしたイメージを持ってもらえる様にしたいと思います。自分の中の「新しい発見」を、1つでも多く見つけてもらえる事を目標にします。</p> <p>【実務経験】ダンススタジオでの講師としての指導、ダンサーとしての舞台活動、そして過去にコンサート・イベント制作会社という舞台の裏方での社会経験。表方・裏方、両面からの視野と経験をもとに、指導することを心がけています。</p>			
回数	授業形態	内容		
1	演習	立方・基本姿勢の重要性を反復する		
2	演習	バーレッスンの基本動作・応用1(跳躍の着地に繋がるプリエの理解を深める)		
3	演習	バーレッスンの基本動作・応用2(歩く・走る等に結びつくタンデュの理解を深める)		
4	演習	バーレッスンの基本動作・応用3(回転に繋がる強い体幹を鍛え軸を見つける)		
5	演習	基本動作の応用1(複数の動きを組み合わせた振付を覚える)		
6	演習	基本動作の応用2(振付を反復し動きのレベルアップを目指す)①		
7	演習	基本動作の応用2(振付を反復し動きのレベルアップを目指す)②		
8	演習	基本動作の応用3(振付に感情表現を取り入れ、心を動かす事を学ぶ)①		
9	演習	基本動作の応用3(振付に感情表現を取り入れ、心を動かす事を学ぶ)②		
10	演習	基本動作の応用 まとめ1(応用1～3で取り組んだ動きをよりレベルアップする)		
11	演習	基本動作の応用 まとめ2(試験に向けて個々の課題を明確にする)		
12	演習	試験(応用1～3での成果を複数のグループで発表する)①		
13	演習	試験(応用1～3での成果を複数のグループで発表する)②		
14	演習	まとめ(学んだことを改めて反復する)		
15	演習	まとめ・総括		
準備学習 時間外学習	<p>習慣的な日々のストレッチを取り入れて見て下さい。 前回の動きの復習を行うことで、新しい動きにスムーズには入れます。復習して下さい。</p>			
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	1、実技試験100%		
教材	教科書	なし		
	参考書	なし		
学生への メッセージ	<p>これまで学生の皆さんが学んでこられた事を大切に、更に1つ1つの事を具体的に理解を深めて取り組む事、バレエの大切さや楽しさを、より感じてもらえたらと思います。表現力・技術面の向上も目指します。</p>			

ダンス&アクターズ科 昼間部 I 部

科目名	アフレコ・アテレコ(フリースタジオワーク)		担当教員名	松本拓也
時間数	60	選択・必修	配当年次	1年次
曜日・時限		必修	教室	506教室
授業の到達目標	声優としてのスタジオの使い方。マイクワーク、芝居、アテレコ現場やナレーション現場で使える人材育成。			
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する 声優になるために必要な心構え。スタジオでの実践を交えながら、芝居、ナレーション読み、映像とのリンクのコツを学んでいく。 【実務経験】株式会社キャラ所属 キャリア14年 ナレーター、声優、MC。スマホアプリやPS4ゲームの声優。その他TVCMナレーションや、イベントMCなどで活動しています。			
回数	授業形態	内容		
1	演習	プロの声優への心構えとマイクを使った自己紹介。機材のセッティング、使い方を学ぶ		
2	演習	マイクを使う時の注意点、マイクとの距離感、マイクとお友達になる！		
3	演習	様々なナレーション原稿を使い原稿に慣れる。(CMナレ)(映像なし)		
4	演習	映像ありの原稿を使い、映像とリンクさせたナレーション読みを演習する。		
5	演習	キャラクターボイスの作り方、キャラの演技分けを認識して演技分ける。		
6	演習	キャラクターボイスの作り方、キャラの演技分けを認識して演技分ける。		
7	演習	体験レッスンで使用しているアニメ台本から、短いシーンをアテレコ		
8	演習	アニメ作品1話丸ごとアテレコ。1週目は、台本の確認、配役オーディション		
9	演習	アニメ作品を決められた配役で本読みをしていく。		
10	演習	アニメ作品丸ごと1話 アテレコ練習		
11	演習	アニメ作品丸ごと1話 アテレコ練習		
12	演習	アニメ作品丸ごと1話 アテレコ収録		
13	演習	収録した作品のプレビュー&自己評価。自分に足りないスキルの確認。		
14	演習	収録した作品のプレビュー&自己評価。自分に足りないスキルの確認。		
15	演習	まとめと振り返り		
準備学習 時間外学習	台本研究 読み込み アクセントなどの下調べ キャラクターの感情研究 たくさんの作品に触れる 常にアンテナを張り、感情表現に生かすこと			
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	実技100%		
教材	教科書	アクセント辞典・アテレコ台本・ナレーション原稿・映像素材		
	参考書			
学生への メッセージ	1年間でプロの声優のスキルをすべて身に着けるのは正直難しいです。ですが、プロになるために必要なスキル、何をしなければいけないのかが分かれば、あとはそこに向かって進んで行けます。「声優になりたい」という目標ではなく、今あなたが何をしなければならぬかを見つけることが1番の近道です！夢かなえましょう！			

ダンス&アクターズ科 昼間部 I 部

科目名	オーディション対策1(バレエA(2))	担当教員名	山名佳代
単位数	30	必修・選択	配当年次
曜日・時限		必修	教室
授業の到達目標	リハーサルスタジオC		
(1)基本姿勢・基本動作を学び、正しい身体の使い方・動かし方を習得する。			
(2)基本動作が、様々な動き・踊りに繋がるイメージを持ち応用できる様になる。			
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する バレエを通じて、心身共に柔軟に、舞台人として大切な身体表現を習得する。「わかりやすさ」に重きを置き、可能な限り学生1人1人に向き合える様な丁寧な授業を心がける。バレエでの学びが、具体的にどんな事に結びつくのかを説明し、それぞれの中ではっきりとしたイメージを持ってもらえる様にしたいと思います。自分の中の「新しい発見」を、1つでも多く見つけてもらえる事を目標にします。		
【実務経験】ダンススタジオでの講師としての指導、ダンサーとしての舞台活動、そして過去にコンサート・イベント制作会社という舞台の裏方での社会経験。表方・裏方、両面からの視野と経験をもとに、指導することを心がけています。			
回数	授業形態	内容	
1	演習	立方・基本姿勢の重要性を反復する	
2	演習	バーレッスンの基本動作・応用1(跳躍の着地に繋がるプリエの理解を深める)	
3	演習	バーレッスンの基本動作・応用2(歩く・走る等に結びつくタンデュの理解を深める)	
4	演習	バーレッスンの基本動作・応用3(回転に繋がる強い体幹を鍛え軸を見つける)	
5	演習	基本動作の応用1(複数の動きを組み合わせた振付を覚える)	
6	演習	基本動作の応用2(振付を反復し動きのレベルアップを目指す)①	
7	演習	基本動作の応用2(振付を反復し動きのレベルアップを目指す)②	
8	演習	基本動作の応用3(振付に感情表現を取り入れ、心を動かす事を学ぶ)①	
9	演習	基本動作の応用3(振付に感情表現を取り入れ、心を動かす事を学ぶ)②	
10	演習	基本動作の応用 まとめ1(応用1～3で取り組んだ動きをよりレベルアップする)	
11	演習	基本動作の応用 まとめ2(試験に向けて個々の課題を明確にする)	
12	演習	試験(応用1～3での成果を複数のグループで発表する)①	
13	演習	試験(応用1～3での成果を複数のグループで発表する)②	
14	演習	まとめ(学んだことを改めて反復する)	
15	演習	まとめ・総括	
準備学習 時間外学習	ストレッチを毎日習慣的に取り入れてもらえる、より動きやすくなると思います。可能な範囲で行っててください。		
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	1、実技試験100%	
教材	教科書	なし	
	参考書	なし	
学生への メッセージ	バレエの基本姿勢や動作があらゆる動きに繋がると思います。基礎を大切に、自分の身体と向き合い1つ1つ習得していきましょう。		

ダンス&アクターズ科 昼間部 I 部

科目名	進級制作(プロジェクトD1)		担当教員名	照井 裕章
単位数	220	必修・選択	配当年次	1年次
曜日・時限		必修	教室	
授業の到達目標	1年間学んだ、発声、滑舌、アクティング等を活かした舞台制作。 芝居毎に異なるコンセプトを理解した上で芝居を行う。			
授業の内容	発声、滑舌等の反復から一つのテーマ、コンセプトによる芝居を作り上げていく。 その中でコミュニケーションの重要性を感じてもらい、みんなで一つの芝居を作り上げていく過程を学んでもらう。			
【実務経験】	ユニバーサルスタジオジャパンにてエンターティナーとして契約。ダンスインストラクター、バックダンサー、イベント出演など。2006年より大阪ダンス&アクターズ専門学校にて学科を担当。			
回数	授業形態	内容		
1	演習	コンセプトミーティング		
2	演習	各芝居リーダー顔合わせ & 課題練習		
3	演習	課題練習		
4	演習	オーディション準備		
5	演習	キャストオーディション		
6	演習	ブロックリハーサル		
7	演習	ブロックリハーサル		
8	演習	演出ミーティング		
9	演習	演出ミーティング & ブロックリハーサル		
10	演習	全体リハーサル		
11	演習	テクニカル稽古		
12	演習	通し稽古		
13	演習	現場全体リハーサル		
14	演習	本番		
15	演習	振り返り		
準備学習 時間外学習	発声や滑舌に常に意識を向ける			
成績評価	1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%) 3. 課題 (%)	実技試験100%		
教材	教科書			
	参考書			
学生への メッセージ	1年間の集大成となる舞台です。お客様に来てもらうことに責任とプライドを持って取り組んでください。 そして次年度の卒業制作に向けて知識と技術と人間性を高める場としていきたいと思います。			